

## 政府・厚労省は不当解雇を撤回せよ！

= 11.6 厚労省前要求行動に 101 人 =



525 人もの社会保険庁職員が不当に解雇されてから 4 年 10 カ月を迎えた 11 月 6 日、国公労連は旧社保庁職員解雇撤回と雇用確保を求める厚労省前要求行動を実施しました。全労連、県労連、医労連、自治労連、全教、JMIU、JAL 原告団の仲間など 101 人が参加し、「政府・厚労省は不当解雇を撤回せよ！」と怒りの声をあげました (写真)。

主催者あいさつで国公労連の宮垣中央執

行委員長は、全厚生闘争団 25 人が 6 カ所の地方裁判所で不当解雇撤回を求めてたたかっていることにふれ、「一番早い京都事案は 12 月 8 日に結審し、年度内判決が予想される。今月開かれる ILO 結社の自由委員会も強い関心を示すなど、日本政府が行った 525 人の分限免職処分が国際的にも批判されている。JAL や日本 IBM の不当解雇撤回のたたかいとともに多くの人たちに解雇の不当性を広げ、勝利判決を勝ち取り、すべての原告の職場復帰を実現するために奮闘しよう」と訴えました。

連帯あいさつした全労連の根本副議長は、「労働者派遣法改悪法案が昨日 11 月 5 日から審議強行された。労働者の生存権と勤労権を保障するためにも、国の責任を徹底的に追及してすべての裁判を勝利させよう。署名と宣伝を大きく広げ、結審を迎える 12 月 8 日には京都で開催する全国決起集会に結集を」と呼びかけました。秋田県労連の越後谷事務局長 (写真右)



は、「年金事務所は、連日の年金相談と膨大な事務量を処理しながら心身をすり減らす年金業務を遂行している。さらに非正規労働者への雇い止め通告があり、断じて許せない。いま秋田の 4 名の原告が仙台地裁でたたかっている。秋田県労連は、安心できる年金行政をつくるために闘争団を支援し、たたかいの輪を大きく広げていく」と述べました。

全法務の空副委員長 (写真左) は、「愛知では支援共闘会議として毎月駅頭で宣伝し支援を訴えているが、学生から『公務員は賃下げも解雇もされたのですか』と聞いてきた。育休中の解雇など愛知は女性の原告 2 人が裁判でたたかっ



ている。私は 30 年前の国鉄分割民営化で職場を追い出された怒りは決して忘れない。全法務は、自らの課題としてすべての原告の職場復帰のために奮闘する」と訴えました。

全厚生闘争団 (京都) の鴨川さん (写真右) は、「政府は、年金問題の国民の不信・不満を社保庁職員に責任を押しつけ、寒空の下 525 人を解雇した。私たちは夜も眠れず、生活を破壊され、人生を壊された。京都の原告 15 人がたたかう裁判は来年 3 月にも判決が出されようとしている。国民のための年



金業務をするために職場に戻りたい。1日も早く全面解決し、労働者が安心して働ける社会をつくるためにも、みなさんの支援をよろしくお願いします」と裁判闘争への支援を訴えました。

# 社保庁職員不当解雇撤回・院内集会開催

## = 6地裁宛「公正判決要請署名」に全力あげよう =

厚生労働省前要求行動に引き続き「社会保険庁職員不当解雇撤回・院内集会」が参議院議員会館内で行われ、70人が参加しました。



主催者あいさつした国公労連の宮垣忠委員長は「人事院の旧社保庁職員の分限免職取消が35%にもなったのは前代未聞。6カ所の裁判所に提訴してたたかっている。安倍首相は今国会中の労働者派遣法の改悪を強行しようとしており、来年通常国会にはホワイトカラーエグゼンプションの成立を狙っている。また、解雇の金銭的解決を可能にしようとしている。日本航空やIBM

の仲間と連帯して、首切り自由を許さないたたかいを強めよう」と述べました。

激励にかけつけた田村智子参院議員(写真右)は「昨年、厚生労働委員会で質問したが、社保庁職員の解雇は公務員攻撃の皮切りで、雇用破壊の先鞭をつけるもの。横浜の年金事務所を訪問して話を聞いた。非正規切りをして、また非正規を採用している実態を知った。年金事務所が十分対応できないため、社労士に相談がまわってくる。年金制度改正により、年金保険料を10年かければ、受給可能になる。人が足りないのは明らか。ベテランをなぜ戻さないのか。決算委員会でもとりあげたい。12月10日には特定秘密保護法が施行となる。今一度、一大闘争を巻き起こそう。安倍首相の暴走ストップへ大きな運動をすすめよう」と呼びかけました。



加藤健次弁護士(写真左)は「社保庁不当解雇問題で朝日新聞が社説に取り上げ、大阪市の組合事務所貸与拒否でも勝訴するなど、今、公務員バッシングをくいとどめ、おしかえしている。社保庁不当解雇撤回裁判では、京都で勝って全面解決するたたかいをめざす。年金者組合は年金引下げの審査請求をおこない、今後は裁判も検討している。怒りを政府にむけていこう。賃下げ、解雇を許さず、労働者としての権利を確保するため、国民の理解を広げよう。大きな構えで、もう一回り、二回り、運動を広げよう。本質を伝え、政府に迫っていこう」と訴えました。

京都の原告を代表して、北久保和夫さんが「京都では人事院不服申し立てのあとすぐ、裁判所に提訴してたたかってきた。人事院は3人が分限免職処分を取り消したが、その3人は慰謝料請求で裁判を続行している。13回の口頭弁論を経て、年度内にも判決となる。署名は1万筆を超えたところ、とりくみを強化する。引き続き支援をお願いします」と決意を述べました。



JAL 乗員原告団の飯田祐三さん（写真右）は「整理解雇から3年10カ月。今、世界的なパイロット不足。パイロットは2カ月の訓練で戻れる。職場に戻すべきだ。JAL からのパイロット流出は170人に達し、経営者への根深い不信感がある。稲盛フィロソフィーは、美辞麗句に終始するが、社員に会社への従属を求めるもの。暗い職場、ものの言えない職場になっている。乗員組合の『アンケートで転職を考えたことがあるか？』との問いに、『安全に対する意見を軽視』『会社に対する忠誠心は整理解雇以来なくなった』『不当労働行為は過ちだった、と謝罪がない』などの答えが返ってきている。安全運航のためには、自由闊達な明るい職場があればこそ、操縦室で安全を守ることができる。ストライキに対する管財人による介入発言を8月28日の東京地裁判決は不当労働行為と認定した。この論理でいけば、整理解雇も成立するはずがない。135人の原告は最高裁での勝利めざしてがんばっている。ご支援をお願いします。ともにたたかおう」と激励しました。



全厚生 of 川名副委員長が、「日本年金機構の非正規職員が年末から年度末にかけて約4,700人も大量に雇止めされようとしている。経験を積んだ非正規職員がいなくなれば、業務運営に支障をきたし、しいては国民サービスの低下につながる。大量の雇止めを止めさせ、ベテラン職員を直ちに復職させなければならない」と報告しました。

その後、参加した原告8人それぞれから、職場に戻る決意が語られました。

## 全厚生を支える会第5回総会開く

院内集会の後、全厚生を支える会第5回総会が開かれ、45人が参加しました。

主催者を代表して、全労連の小田川義和議長が「重要な3つの争議の1つ。全厚生の裁判は組織改編時の雇用保障、政府の責任を取らせるたたかい。公務でのリストラがすすむなか重要な裁判だ。JAL は会社更生法下での整理解雇。日本アイビーエムは個人の業績・評価が解雇の基準になっている。これらは『解雇自由化』と軌を一にしている。たたかいを強化していこう」と呼びかけました。



挨拶する全労連・小田川議長

杉下事務局長がいつもの会員拡大など今後のとりくみと会計報告を行った後、全厚生・山本委員長が支援への御礼を述べ、「なんとしても京都で勝ちます。引き続き支援をお願いします」と訴えました。

JAL 客乗原告団の仲間、全厚生 OB 会からの発言の後、提案の確認。代表世話人に小田川全労連議長、小部自由法曹団前幹事長、柴田婦団連会長、宮垣国公労連委員長の4人を、事務局長に杉下全厚生元委員長を選出しました。

全厚生闘争団の松本さんが決意表明。最後に、国公労連の宮垣委員長が閉会あいさつし、「国公労連は特別の闘争体制をとり、運動を強化する。ILO 勧告も間もなく出る。年金者組合や、安心年金つくり会とともに奮闘していこう」と述べ、総会を終えました。

終了後、衆参の厚生労働委員70人に政治的解決を求める要請を行いました。（国公労連速報3114より）

# 愛知分限免職処分取消訴訟 第4回弁論は大法廷で開催

11月5日、名古屋地方裁判所の大法廷で第4回弁論が開かれ82名が参加しました。弁論開会前に名古屋地裁前にて裁判前集会ののち大法廷へ向かいました。今回の弁論は国の分限回避努力の責任を明確にするために、第3準備書面を提出しました。国の主張はすでに廃止された社会保険事務局長に分限回避努力の責任を押し付けるもので、本来、国家公務員の使用責任は国でありそれを主張するために書面提出を提出しました。



次回期日は、12月24日（水）次々回期日は2月4日（水）でいずれも11時から大法廷となっています。

## 誇りを取り戻すために必ず勝利する ＝秋田闘争団激励・決起集会/支える会第5回総会開催＝

11月8日、秋田市内で全厚生秋田闘争団激励・決起集会と支える会第5回総会が開催され、50名を超える支援者で会場は熱気であふれました。支える会総会では、秋田労連の越後屋事務局長から活動報告と裁判勝利に向けた署名の訴えがありました。激励決起集会では、虻川弁護士から裁判の現状と今後について報告がありました。その後、原告4人が京都から駆けつけた全厚生闘争団の仲間と共に合唱構成を行ないました。その中で、原告一人ひとりがこれまでの想いを語り、「5年が経過する中で節目、節目で考えることもあったが、みなさんの支えがあり、やっぱり誇りを取り戻すために頑張る」と決意を語りました。

秋田の第7回弁論は11月19日（水）午後13時15分から仙台地裁で開かれます。



### 事務局

〒604-8854

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都地下

京都国公気付 ☎:075-801-7875 FAX:075-801-7876（共に京都国公）

[mail:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp](mailto:mail:zenkousei-tousoudan@xug.biglobe.ne.jp)（全厚生闘争団メールアドレス）

[http://www.geocities.jp/zks\\_sasaerukai/index.html](http://www.geocities.jp/zks_sasaerukai/index.html)（全厚生闘争団を支える会ホームページ）